

平成26年度(2014年度)神戸大学大学院国際文化学研究科 博士課程(前期課程)

現代文化システム系領域
芸術文化論コース 試験問題(専門科目)

(注) 問題用紙: 4 枚

解答用紙: 問題 I 用 2枚、問題 II 用 1枚(計3枚)

問題 I 次の文章を読み、以下の(1)、(2)、(3)の設問すべてに答えなさい。
(解答用紙 2 枚)

注記: 著作権上の理由から、本文は公開していません。

※ 文章出典: シンシア・フリーランド著『でも、これがアートなの?—芸術理論入門』
藤沢えりみ訳、ブリュッケ、2012 年、82-85頁、および 92-96頁。(ただし、一部省略した部分および表記を変えた部分がある。)

(1) 芸術についてのデューイの考え方と筆者の考え方を、両者の違いが明確になるように、10行程度でまとめなさい。

(2) 下線部(A)について、異文化を理解しようとする努力の中には、どのような問題点があると筆者は指摘しているのか、文中の具体例の意味を説明しながら、15行程度で述べなさい。

(3) 下線部(B)の筆者の意見について、あなたの考えを5行程度で述べなさい。

問題II 次の問題(1)～(4)から、1問を選択して答えなさい。
(解答にあたって、選択した問題番号を明示すること。 解答用紙1枚。)

(1) 日本の芸術文化施設もしくは芸術文化団体の課題について国際比較を踏まえて論じなさい。

(2) 都市政策もしくは「まちづくり」と芸術文化との関係について具体例を挙げて論じなさい。

（３）グローバル化の進んだ現代の芸術文化と「伝統」との関係について、具体例を挙げながら論じなさい。

（４）複製品の氾濫する現代において創作におけるオリジナリティの問題をどう考えるか、具体例を挙げながら論じなさい。